

2016年1月吉日

キリンビール株式会社  
代表取締役社長 布施孝之 様

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク

運営委員長 須田 春海

副運営委員長 中井八千代

## たび重なるご返答への御礼

たび重なる私たちの質問に対して、ご多用中にもかかわらず、御社内でご共有いただいた上でのご回答を賜り、御礼申し上げます。

さっそくですが、ご返書に記載されておりました、御社の「環境に配慮した容器包装等設計指針」を拝見させていただきました。消費者は、商品を選ぶことはできますが、容器を作ることはできません。ぜひとも、「地球の豊かなめぐみと環境を持続的なかたちで将来に」つなげることができますよう、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、日本の容器包装リサイクル法は、「リサイクルを広める」という一定の成果はありましたが、様々な課題があることはご承知のことと存じます。とりわけ、リデュース、リユースが遅れていることは、第四次環境基本計画や第三次循環型社会形成推進基本計画にも明記されており、国の共通認識となっております。これらのことを踏まえて、2016年1月20日、容器包装リサイクル法の見直しのための経済産業省と環境省の合同会合が再開されるに至りました。

また、日本の容器包装のリサイクル率が高いのは、消費者の分別排出や自治体の分別収集があってこそ実現できているものであり、日本の生産者がドイツのように生産者責任で回収する団体を発足しているわけではなく、またフランスやベルギーのように収集する自治体の費用を補填しているわけではありません。三者の協力により、実現している実績であります。

今日の日本は、持続可能な循環型社会の構築が急がれる状況にあります。単一素材で作られたPET ボトルはもう一度PET ボトルに戻す「水平リサイクル」を実行してこそ、リサイクルしたと言える素材です。御社が他に先駆けて導入された「DLC-PET ボトル」につきましては、ぜひとも、御社が責任を持ってもう一度PET ボトルに戻し、しっかりと再利用していただきたいと存じます。

おりしも、2015年12月2日、EUの循環経済パッケージがあらためて公表され、容器包装のリユース/リサイクル率の2030年目標が75%と掲げられました。環境問題に先進的に取り組まれてきた御社におかれましても、ぜひ、2020年、2030年に向けた数値目標を掲げて頂き、地球の豊かなめぐみと環境が持続的なかたちで将来にバトンタッチできますよう、期待しております。

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局

〒102-0082 東京都千代田区一番町 9-7 一番町村上ビル 6F 市民運動全国センター内

Tel : 03-3234-3844 Fax : 03-3263-9463

Email : reuse@citizens-i.org URL : <http://www.citizens-i.org/gomiO/>